



国土交通省道路局長 様

今後の道路政策や道路の整備等について

宮津市は、日本三景天橋立をはじめとする豊かな自然と歴史・文化に恵まれた観光地で、年間260万人の入込客がありますが、地域特性等から若者を中心とした大都市圏への人口流出が続き、地域活力の低下を余儀なくされております。

このような状況の下、地域活力（元気な宮津）を取り戻すためには、観光を基軸とした産業の振興が最も有効な施策と位置付け、天橋立の世界遺産登録を目指すとともに、観光関連産業の振興と併せ、まちなか観光の推進にも力を注いでいるところであります。

これらの施策を展開する上においては、京阪神の大都市圏や日本海沿岸の各都市を結ぶ高速道路網の整備が不可欠であり、同時に観光地周辺の景観対策として、電線類の地中化や植樹、高質舗装等による景観に配慮した道路整備を重点的に進める必要があると考えております。

一方、市内の交通不便地や豪雪地域においては過疎化が著しく、集落を維持するためには生活幹線道路の整備が喫緊の課題となっております。さらに、豪雪時の除雪については、高齢化に伴う労力の不足も相俟って多大な財政支出を強いられており危機的な財政状況にある本市にとって大きな負担となっております。農山村集落の存続は国土の保全と環境対策の観点から欠かせないものであり、これらハンデを抱えた地域に対する生活路線整備や除雪経費な

どへの国の全面的な支援策を切に求めるものであります。

また、地域内の生活道路に目を向けると狭隘道路が多く、両側に住居が建ち並んでいるため拡幅も困難なことから、既存道路幅員を有効に活用した蓋付の道路側溝改良が現実的かつ効率的な手法と考えているところですが、既存の道路事業制度での対応が困難なことから、その拡充を強く望むものであります。

平成16年10月の台風23号の折には、市街地に通じる全ての国・府道が通行不能となりましたが、平成15年に部分開通した京都縦貫自動車道が復旧支援のための給水、物資輸送や自衛隊の早期出動等に係る緊急車両の通行において唯一の生命線としての役割を果たし、高速道路の効果を実感したところであり、その早期全線供用開始と鳥取豊岡宮津自動車道の早期完成を心待ちにしております。

地方の道路整備は依然として遅れており、地域の安心・安全、社会経済活動の広域化を図るためには道路整備が不可欠であると考えますので、今後の整備計画策定に当たっては、このことに十分御配慮いただきますようお願い申し上げます。

平成19年5月

宮津市長 井上正嗣

